

## 人間性に根差した自分を創ろう

二 普 基 町 明治学院大学

工学部長 吉田典可

自ら選んで挑戦し、本学への合格の栄誉を勝ち取ることができた諸君の喜びはさぞかしお推察し、心からお祝いのことばを贈る。

新入生諸君、ご入学おめでとう。

入学の当初に、まず、自分の修学の目標を立ててほしい。学究を目指す者、技術の習得と開発を目指す者、社会への直接的奉仕を目指す者などいろいろであろう。いうまでもなく、大学は専門家として活躍できる社会人になるための修練の場である。しかし、更に重要なことは、4年間の修学をとおして、個々の学生が人間形成の基礎を築くことである。その意味から、諸君に「人間性に根差した自分を創ろう」と呼びかけたい。

まず、どのような自分を、どのようにして創るかについて、イメージを想定し、目標を設定する。そして、現在自分が持ち合わせている基盤を理解し、目標達成のための方策について考えることが必要である。大学での一般教育課程は、そのための自己省察と実践の上で、重要な当初の段階に位置づけられる。人間と呼ぶにふさわしい自分を創ることは、自分自身が人間についてどのような理解を持ち、どのような価値観を持つかの問題でもある。時に、人間は己を万能であるかのように過信し、文明の開化や文化の発展はかくかぐたるもののように豪語する。また、地球上の生きとし生けるものの中にあっては、大自然の制御をすら夢見て王者のように振る舞うきらいがある。よく考えてみれば、地球上で生き続けてきた人間は、他の生きものと

は違って、確かに優れた頭脳をもち、道具を発明し、技術の育成と伝承に努めてきた。そして、人間の周りとしての環境から生じる種々の危険を克服してきた。たとえば、火を自由に操れるようになったことにより、猛獣からの身の安全の確保や、食生活の改善など文明、文化の端緒を開いたといえるだろう。他方、現在における新しい火としての原子力を利用することの有用性と取扱い上の危険性を考え合わせると、人間の生命と種の維持という観点から見た場合、火を手なづけることと原子力の利用とは質的に類似した有用さと危険を感じさせるといえる。目を見張るような宇宙船地球号での現代の科学技術の進展にもかかわらず、このように思えるということは、人間の本能的な特性においては有史以前からこんにちまで何ら変わっていないといえよう。こんにちまでの知性によって創造された技能や技術が間断なく環境を変えてきたのに反して、人間の本能や感情はどちらかといえば野性的で、原始的な世界に適するように形成された形のまま保持されてきたといえよう。すなわち、人間の情意や習慣は、技能や技術ほどに急速に変化することはできないことを示している。このように考えると、人間にふさわしい自分を創ることのもつ意義の重要さとその達成の困難さがうかがい知れる。自分自身の基盤の上で、大学在学期間をとおして休むことなく、感性と論理の両面から、個性豊かでしかも社会性を失わない自己の創造に研鑽されんことを切に望むものである。